

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会の賛助会員のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会／おはようございます。

それでは、知事定例記者会見を始めさせていただきます。

本日は、まず新型コロナウイルスに対する県の対応等につきまして、荒井知事よりご説明いたします。

知事、よろしくお祈りします。

知事／こんにちは。よろしくお祈りします。

離れていると、ちょっと寂しいですね。

一昨日、国のほうで、緊急事態宣言が出まして、国の声明を出しましたが、今日会見がありますので、それをフォローする形で奈良県のコロナ対策をご説明申し上げたいと思います。

まず、全般的なことですが、大都市、海外への往来自粛をお願いしたいと思います。

これは、今までの奈良県の感染状況を判断してみますと、大都市からうつされたという経緯が多いもの、海外の帰国者がうつされて帰ってこられたことが多いということを踏まえてのことでございます。

後ほど、そのような事情もご説明申し上げます。

先ほど言いましたように、2枚目になりますが、4月7日に政府より7都府県を対象に緊急事態宣言が出されましたが、奈良の近県としてまして、大阪府と兵庫県が入っております。

関東圏の往来もある都市であります。

このような都市では感染が急増しているのが、緊急事態宣言の根拠でございますが、奈良はそのような状況にはまだありませんけれども、用心するに越したことはない状況でございます。

したがって、最初に申し上げましたように、大都市、海外への往来自粛、特に緊急事態宣言が出されました大都市については、より以上にケアをしていただきたいというふうに思います。基本的なことになりますが、一人ひとりがうつらないという行動パターンをとる。

それから、うつさないという行動パターンをとる。

その連続に尽きるように思っております。

うつらない、うつさないためには、自らの防御、往来自粛を含めまして、その周りの環境整備をしていただくことが大事でございます。

うつさないということも、配慮が必要かと思えます。

その取組を個人個人の皆さまにお願いする、それが一番感染が拡大しない基本的なことだと思っております。

このようなことをお願いするに至った経緯、また事情をご説明申し上げたいと思えます。

奈良県の感染者の状況ということになりますが、3月28日からほぼ毎日発生している状況でございます。

この13日間で、合計21名の発生状況でございます。

次のグラフを見ていただきたいと思います。

このグラフを見ていただくとよくわかりますように、1月28日から4月8日までの累計でございます。

1月28日に、中国武漢市からのツアー客を乗せた、バスの運転手は奈良県在住の方で、1名発生いたしました。

その後、約ひと月強、発生はございませんでした。

3月6日になりまして、大阪のライブハウスに行き帰ってきた方からうつされてきたことがわかりまして、クルーズ船から下船された方に奈良県在住の方もおられまして、この間、感染者が8名になりました。

その後、3月12日から27日までは、1名の発生で推移をしております。

3月27日からほぼ毎日患者が発生いたしまして、感染者の累計は30名となりました。

特に、この最後の上り坂が急でございますので、やはり用心をしていただきたいと思います。このような、特にこの最後の上り坂、・・・3月31日からの上り坂の感染経路になりますが、次のテロップです。

21名の感染経路は、おおまかに言って4つに分かれます。

1つめの10名の方は、21名のうちの10名の方は、感染経路不明でございますが、大阪等への来訪歴が、ほぼすべての方にございます。

大阪のどこでうつされたかということとは不明だということでございます。

感染経路は、一応不明でございますが、大阪等の来訪歴がほぼありますので、第1枚目の大都市への往来自粛要請につながっていることでございます。

それから、4名の方は、県外大都市での感染になりますが、具体的には大阪ということでありまして、県内での二次感染の方が、このうち2名あります。大阪から帰ってこられた方の家族、濃厚接触者の方がおられて感染されたケースでございますが、元は県外大都市、大阪での感染ということになります。

海外からの帰国者の感染が、奈良県の場合も5名あります。

そこから4番目のケース2名でございますが、これは勤務者でございます。

大阪在住で、県内勤務者の方で、うつしてしまったというケースでございます。

2名でございます。

今のところの感染経路は、このように判明しております。

したがって、大都会、東京のように、感染経路がほとんどフォローできないというものはございませんが、感染経路が不明の方が増えることにならないように願っております。

最初のお願いに戻るわけですが、うつらないためには、このような感染経路から判断しますと、大都市への往来自粛をしていただくのが、うつらないためには大事かと思えます。うつらないための2つめですが、感染経路の4番目になりますけれども、大阪在住の方で、県内勤務の方がうつしたケースに備えてになりますが、大阪府、兵庫県から奈良県への通勤者の方が、約4600名かな。

司会／4000名は通学ですね。通勤はわからない。

知事／大分（だいぶ）おられます。通学者はわかっております。通勤者も大分おられると思えますけど、実数はわかりませんが。

大阪府、兵庫県から奈良県への通勤者は、できるだけ在宅勤務をお願いしたい。

これはお願いする相手は、県内の事業者の方でございませう。

大阪府、兵庫県から来られる方は、できるだけ在宅勤務にさせていただけたらというふうにお願ひしたい。

県庁の中での県外からの通勤者、京都府の南からは多いですが、大阪府、兵庫県に限りますと、約220名おられます。県庁勤務者で県外から通勤されている方々。

そのような方々は、昨日次のように判断いたしました。極力在宅勤務に移行するよう調整を始めたいと思っております。

その次ですが、奈良県内の入院者の対応で、病床が足りなくなるかもしれないという恐れが大都市にはありますが、奈良県の情勢についてご報告申し上げます。

基本的には必要な病床を極力確保したいと思っております。

また、今のところ確保できる見込みでございませう。

今後、感染者が爆発的に増加した場合に備えまして、軽症、無症状の方は、自宅、宿泊施設などで療養していただけるような準備を進めたいと思っております。

具体的には、自宅の環境整備を、感染者の方が帰られたときの指導、あるいは宿泊施設の確保の調整でございませう。

これによりまして重症者の方が数多く出た場合に備えて、病床の確保に繋げたいと思っております。

現在の病床と入院者数の状況でございませうが、次のグラフにあります。

感染者は全て入院していただいております。

感染者の状況、それと発生の状況、入院の状況と退院の状況でございませう。

退院の方の状況は、下のグラフの黄色い線で書いてございませう。

緑の線が、当日の発生状況でございませう。

その差し引きの合計が、入院患者数ということになります。

現在21名が入院している状況でございませう。

その次のグラフになりますが、21名の方に対しまして、現在24の病床でございませうが、3月18日から64床まで病床を確保してございませう。

さらに4月末、期限は見込みで、はっきりしませんが、できるだけ早く確保病床数を231床

プラスアルファにしていきたいと思っております。

これは県の医大とか、県の総合医療センターを重点医療機関にして、調整を図っております。赤い色が実績でございます。

入院患者数が、今後増えたらどうなるかということ想定して点線にしておりますが、今後増えないようにということで、感染抑制を務めたいと思っております。

このように増えた場合の重症者の割合を判断いたしますと、下の青い線になる予定でございます。

いずれにしても、増えないように。

増えた場合に、感染病床を確保するということを図りたいと思っております。

爆発的に増えた場合、今は、重症も軽症も感染している方を全て受け入れておりますが、重症の方を中心に受け入れる方式に移行することも検討します。

その次はPCR検査でございます。

検査の必要な方が確実に検査を受けることにしております。

次のテロップを見てください。

県の保健研究センターで県が直接実施するのを基本にしております。

3月12日までは、1日最大30件ございました。

13日以降は最大45件になります。

3月20日以降最大60件になります。

3月31日までは、20件以内で推移をしております。

4月1日以降は、毎日急増しているという状況も反映いたしまして、毎日ほぼ30件のPCR検査を実施しているということになります。

今のところのPCR検査の態勢は不十分ということにはなっておりませんが、民間検査会社への委託も調整を始めております。

3月19日から、民間の医療機関でPCR検査も可能となっております。

現在、医療機関でのPCR検査も可能となっております。

PCR検査はイドウ(?)のおそれのある方を中心にしてきている日本の実情がございしますが、それに沿って今後も進めることになると思います。

次は教育活動でございます。

学校でございますが、まず、県立学校につきましては、在宅での教育の実施を検討するよう教育委員会に、昨日私から教育長に要請いたしました。

教育長はそのようなことを考えますよと。

在宅での教育の充実は、通常でありましても、過疎地における在宅での教育、あるいは災害が起こったときの在宅での教育という新しい教育のシステムに繋がる可能性もございしますので、この際、このような事情でございますが、積極的に取り組んでいただきたいというふうにお願いいたしました。

教育委員会では今日の午後会議を開いてこのような方向での決定をされると聞いております。教育委員会からこの実行については、またご報告発表があるかと思えます。

現在までの教育活動、学校の再開、延期の状況でございます。

県としてまとめた表がございます。

昨日の午後 5 時現在でございます。

公立私立で分けております。

右の方に、何日までと詳しく書いております。

概ね 4 月 17 日まで、場合によっては、連休明けまでということになっています。

表のように開いている学校もありますが、公立では 75%が延期、私立では 93%が延期となっております。

この中で県立の高等学校では、再開というふうになっておりますが、在宅での教育をするとお願いしたということです。

その次は、介護施設、障害者施設、保育施設におけるお願いでございます。

これらの施設は、閉じるわけにはいきません。学校と違いまして閉じるわけにはいきませんので、開いていただかないと困るわけです。

感染予防に最大限の配慮をお願いしたいと思っております。

介護施設、障害者施設、保育園の配慮事項、これまで言われてきたことでございますが、不要不急の面会の抑制をお願いしたい。

これは施設だけではなくて訪問者の方にもできるだけ抑制をお願いしたいと思います。

施設におきまして、手洗い、マスク着用、アルコール消毒、この 3 原則行動を徹底していただきたい。

それから体温計測も判断の基になりますので、していただきたい。

それから、物品の受け渡しはしよっちゅう行われると思っておりますが、玄関でお願いしたいと思います。

次の項目です。

イベントなどについてでございます。

中止、延期または規模の縮小等の検討をお願いします。

いろいろご事情もあるかと思いますが、この際でございますので、中止延期、

または、規模を縮小の検討をお願いしたいと思います。

次に県のイベント等の説明をいたします。

開いている会館がございます。

文化会館の会議場は開いております。

会議を行う場合も、中止、延期又は規模縮小の検討もお願いしたいです。

これは借りられる方へのお願いです。

次は県の状況です。

中止延期したイベントは約 232 件ございます。

この季節の県のビッグイベントでありましたムジークフェストなら 2020 は全公演中止にしております。

展示等を行う県有施設は、12 施設を休館しております。

万葉文化館、県立図書館は、4 月 27 日まで休館しております。

予定であります、休館延長については、情勢を見ながらということになると思っております。

最後に情報提供の形ですが、どのような形でもいいのですが、「スマホアプリナラプラス」という県のアプリを出しております。

本県の最新情報をそのスマホアプリの特出しで、これから掲載をしていきたいと思っております。

発表案件、感染者の発生、入院状況など、刻々変化する状況でもありますので、ナラプラスの中に、特出しの項目を入れていきたいと思っております。

私からの報告は以上でございます。

ご清聴ありがとうございました。

19分56秒

司会／それでは、これから新型コロナウイルス感染症について、ご質問を受けたいと思います。会場が広いですので、挙手のうえご指名させていただきます。

マイクが届きましたら、ご質問をよろしくお願いします。

では挙手をお願いします。

では、産経新聞さんから。

産経新聞／産経新聞のカワニシです。

うつらないための対策ということで、レジュメが出ています。

真ん中あたりのページで、1. 大都市の往来自粛、2. 海外への渡航自粛。

これは今回初めて呼びかけるということで、よろしいでしょうか。

荒井／今までは自粛というか、気をつけてというか。

今まで言ってきたパターンは、うつらないようにしましょう、うつさないようにしましょう。

個人個人へ呼びかけておりましたので、具体的に言うとうつらないためには、うつるところに行かないようにしましょうということになります。

先ほどのグラフを見ると、最初に出たのは大阪ライブハウスでした。

そのようなところに行かないようにしましょうという、具体的な要請になります。

うつらないようにしましょうということ申し上げて、個人の判断に委ねていたということですので、言い方が具体的に絞ってきたという状況です。

産経新聞／わかりました。

2. のほうでは、大阪や兵庫から県内の方に通勤している人は、できるだけ在宅勤務にというお願いですが、奈良県内から大阪、兵庫に勤務している方に対して呼びかけは何かありますか。

荒井／これも、うつらないためにということになります。

感染経路の中で、ライブハウスに行つてうつられた方のほかに、大阪への勤務者で、大阪でうつされたという方が、1名か2名おられます。

そのような方の用心の仕方、うつらないための用心の仕方になります。

大阪の会社になるので、大阪の会社の事業者が奈良県から来なくていいよ、または、大阪で

在宅勤務をするよと言っていたら、それでいいのだが。

大阪の事業者の呼びかけになるので、奈良県としては、大阪の事業者への呼びかけという直接的なことは、取っていません。

大阪に勤務している奈良県民への呼びかけになる。

うつらないようにしてくださいねということになる。

大阪でうつった人も、ごくわずかだがいるということで、話をするときも離れてする、そういうことだけでもずいぶんと違うと思う。

大阪に通勤しないようにということまでは申し上げません。

産経新聞／ありがとうございました。

もう一点。

うつらないようにするためにの 2. のところ。

大阪兵庫からの奈良県への通勤者は、できるだけ在宅勤務にするという願いがあります。

これは具体的にどのような要請をされるのでしょうか。

荒井／これは奈良県内の事業主の方へのお願いです。

大阪在住で、県内に勤務する人がうつしたというケースも少数だが発生している。

そういうケースがあるということがわかってきております。

従って事業主の方に、大阪からの勤務者について特段の注意をしてくださいという呼びかけになると思います。

県内の一般の事業主の方への呼びかけとなります。

県も事業主であります。

県庁へも大阪、兵庫からの通勤者が 221 名おられる。

その方たちが、在宅勤務に移行できるようにできれば、移行するという調整を始めたばかりでございます。

それと同じようなことができるならば、お願いしたいということです。

産経新聞／ありがとうございました。

わかりました。

司会／ほかにどうでしょう。

日経新聞さん。

日経新聞／保健所が厳しい状況にあると思います。

職員の再配置について、それについて説明してください。

(声が小さくて、聞き取れない部分がありました)

荒井／大変申し遅れましたが、医療機関の方、県の対策本部を含めまして、大変頑張っていたいています。

また、介護施設、障害者施設、保育園などは、うつると大変。

緊張の中で頑張ってくださいっています。

改めて感謝を申し上げたいと思っています。

本当に頑張ってくださいありがとうございます。

そんな中で、保健所というところは、最初から主役でありました。

どんどん増えてくると、PCR 検査から療養の体制また健康の指導など大変な事業が発生しております。

それについて保健所の体制を強化することを始めました。

9名の職員を増員いたします。今日からの業務発令をお行っております。

郡山3名、中和3名、保健研究センター1名、疾病対策課2名、9名の増員を行いました。

また今後の様子を見て、人員動員を行っていきたいと思っております。

日経新聞／保健師さんのOBに呼びかけはしていないのですか？

荒井／この方たちは、それに入っていないですね。

日経新聞／福井県では、昨日知事が、融資額を県独自で上げると発表されてますが、奈良県として、企業に対して、融資額の拡大なんかは・・・（聞き取れませんでした）

荒井／経済対策ですね。

最初に、割と早く無利子無担保のつなぎ融資の対策を出しました。

その後、一般の融資額が43億ぐらいあります。

資金繰りの無利子無担保で借りられるのが、43億。

それと、基金で何をするかということですが、貸し出しの基金か保証の基金かで、使い方が変わってきます。

保証の基金は、まだ議論の途中だと思います。線引きが難しい面があります。

金づまりで倒産しないようにという面では無利子無担保での貸し出しをしていきたいと思えます。

43億のレベルで資金的にはまだ大丈夫です。

経済的なことになりますので、経済の動向をよく見ながら、これはすぐに対処できると思えます。

司会／よろしいでしょうか。

ほかにご質問は？

では、ABCさん。

ABC／先ほど、事業主について注意してくださいと呼びかけるとおっしゃいました。

具体的に、大阪府、兵庫県にはなるべく行かないように、奈良に来られないようにということ

だったが、具体的に県への呼びかけはありますか。

荒井／今の奈良県のスタイルは、感染経路に当たるところに身を置かないようにということの呼びかけを具体的にしております。

それ以外のところは、今のところ発生していないので、大丈夫ですということになる。

例えば大阪から来られる。

大阪からの勤務者に、奈良県で感染させたという方は1名、2名おられる。

でも、観光客がうつしたというケースはまだない。

だから、どうするかという判断が必要になる。

可能性はあるが、観光客の行動パターンを見ていると、うつす確率はまだ今のところ低いと思います。

だから、来ないでくださいという呼びかけは、今のところはしませんというのが、裏のほうにはあります。

でも、来てくださいということまでは自信を持っては言うわけではございません。

事態の推移を見ながら今のところは、観光客の方が来て、うつしたということはありませんということも申し上げます。

ただ、逆に勤務で、大阪や兵庫に行くとき、発生源は今のところ、奈良から大阪というより、大阪から奈良というのが多い。

うつらないようにということなので、うつされ方はライブハウスでうつされたとか、会社でうつされたというケースがあるので、そういうケースを紹介している。

そうならないようにしてくださいという呼びかけ方になっている。

往來を自粛と言っているが、事例を具体的に示して、そういうケースはリスクが高いということを示しております。

司会／ほかに質問は？

朝日新聞さん。

朝日新聞／病床数の確保のところ、質問します。

64床から231床、プラスアルファ確保するという見込みということですが、具体的に4月末頃とおっしゃいましたが、内訳を教えてください。

どんなところから確保するのか。

荒井／主に県立医大と県の総合医療センターが中心になります。

そこがほとんどを占める。

県立医大は大きな予想の数字を聞いていましたが、今の病床を他の病床に移して、そこを感染者の病床にすることが可能であります。

しかも、医師も割とおられる病院。

感染対策に転換してもらうことができる可能性は、県立医大、総合医療センターということに

なる。

ほとんどはそちらの病床になる予定です。

朝日新聞／今コロナ以外で入院している患者さんに、移動してもらうということですか。

荒井／そういうことではありません。

空き病床というか、入院している方を他の病床に移転していただく可能性はございます。

朝日新聞／入院している方というのは、コロナで？

荒井／ほかの病気で、例えば腎臓病とか、ほかの症状で入院している方は、院内のほかの病床に移動してもらって、その病床は、感染者だけの病床に確保するということになります。

大病院なのでそういうことが可能になる。

場所を確保する、通路を確保するとか、機械の配置など、調整しないとイケない。

そういうことをやっていきます。

朝日新聞／時期としては、4月末ごろまでには確保できるということ？

荒井／具体的にいつまでにできるということは今のところ申し上げられない。

4月末ぐらいを目途にということ聞いております。

朝日新聞／わかりました。

あと、プラスアルファというのはどういうふうにご決定しているのですか？

荒井／県立医大と総合医療センター以外の病院でも協力していただける病院が出てくる可能性がある面でございます。

不定であるが、プラスアルファなので、何百まではいかない。

何十、何床というところへんまで。

量的なことも調整です。

特に関係するのが設備と医師。

医師が使う人工呼吸器、エコムという機械があります。

それをを使うのは技術が必要。

それをするには、医師がいないとできない。

そのような医師が確保できるかどうか。

そうなると、大病院になります。

重症患者を扱うということになりますので、そのような病院を中心に確保したいと思っています。

今は軽症の方も全て受け入れていますので、病床数が必要でございますけれど、

重症と軽症が分かれるということもわかってきました。
まだ死者は出ていないが、死に繋がらないように最大限配慮しないといけません。
重症になりそうな方は、最大限の医療の手当てをするということ、基本にしたいと思っています。

朝日新聞／奈良市長が、記者会見で、奈良市として、宿泊施設を軽症の人か自宅待機の人かはわかりませんが、避難先というか、部屋を確保できないか検討しているとおっしゃっていました。

県としては、県内の宿泊施設に協力を呼びかけるとか、逆にオファーがきているという動きはありますか。

荒井／軽症者の方の身の置き場は、自宅ないし宿泊施設になります。
今は病床確保ができています。

21人の方が入院していて、64床確保されている。

これが爆発的な傾向になると、場所の確保を急がなければいけません。

でもまだ今日現在で確保しないとイケないという状況ではない。

しかし可能性もあるということで、検討に入っている。

具体的に、宿泊施設をどこというところまではいっていない。

それで大丈夫だと思う。

朝日新聞／わかりました。

同じページの入院者数の点線が書いてあるところがありますが、これは県の現段階での増えた場合の見立てですか。

荒井／これはあまり根拠はありません。

大都市東京のようになるかどうかはわかりません。

そうなってもここまでは確保したいというグラフです。

奈良県が東京のように急激になってくるといふ兆候が現れたら、231床でも足りないかもしれない。

でも、医療崩壊に繋がらないようにしようというふうに思っていますが、今の日本の状況は、医療崩壊という厳しい状況は、やはり大都市、急増している東京であると思います。

これから予測するのは、大都市で引き受けられないから、地方で引き取ってくれ、と移送される患者が出るかもしれません。

東日本大震災でも受け入れました。

大都市の病院が足りないから、ということはあるかもしれない。

余裕があれば引き受けるかもしれない。

病床数の確保というのは、足りなくならないようにしたいと思う。

奈良県発症を視野に入れますが、奈良県以外にも引き受けるということ、視野に入れて、

奈良県の発症率が大都市並みになれば、グラフのような点線になるかもしれない。
今の奈良の状況を見ていると抑制の社会状況で、横倒し、前倒しになる可能性が強い。
自動的に発生するわけではなく社会活動によって発生するか、横倒しになるか、わかってきています。

がんは、ロジックモデルというのが確立されている。

そのロジックにならないように薬を投与する。

感染症のロジックは、まだありません。

そのような思考回路で、感染経路はこれだけだから、ロジックの起きるところはストップしましょう。

そう呼びかけている。

ロジックモデルふう呼びかけるのが奈良県の流儀にしているところでもあります。

受け入れ体制のロジックモデルということになる。

奈良県の発症数の予測と、受け入れる必要も可能性としてある。

それも当然視野に入れていきます。

受け入れる可能性もあるということで準備している。

朝日新聞／ありがとうございます。

では、もう一点だけ。

PCRの検査の拡充だが、県保健研究センターのほうで、30～40件、ひいては60件になるという話だったが、それはなぜか？

どうやって増やせるようになったのか。技師の確保はできるのか？

荒井／センターの人員増で、確保したということです。

施設を増やしたということではありません。

朝日新聞／人員増で20日からは60件できるようになったということですね。わかりました。

(41分)

司会／ほかに質問はどうでしょうか。

毎日新聞さん。

毎日新聞／融資がだいたい43億円ですね。

どういう業種が多いのですか。

荒井／調べます。大事なことですので。

私のところに業種についてまでは来ていません。

今後のこともありますので。状況を調べまして、**製造融資(?)**ですので、**〇〇協会がやって、金融企業が融資する**ということです。(意味がわかりませんでした)

どのような方がどのような状況で借りに来られたか、ということフォローする値打ちがある。フォローするように指示をしています。

経済状況はまだよくわかりません。

普通は決算であるとか売り上げとかいろいろありますので、店を閉めると売り上げが減るということは確かです。

小売の方なのか。今日の時点で、私のところまでは報告は上がってきていない。

調べるように指示をしておきます。

毎日新聞／県外職員が 220 名ということですが、知事が所属長に指示をしたということですか。

荒井／昨日指示しました。

私から担当に指示をしました。

在宅勤務への移行を検討してくれと指示をしました。

県庁の職員 220 人に、具体的に指示をしたということではありません。

例えば防災担当だったら在宅勤務は無理。

ただ、交代で休むぐらいはしなさいよということです。

勤務体制の変更ということは可能です。可能性はあると思う。

在宅にできる職種もあると思う。

それを検討するよという指示をしました。

毎日新聞／知事から所属長に指示をしたということですか。

荒井／県庁の流儀は、そういうことをする組織の担当があります。

具体的にいうと、総務部というところ。

検討対策本部ということで立ち上げたわけではないが、会議をしていたときに、そこで指示をしました。県庁の担当者に指示をしました。

毎日新聞／知事が直接指示をしたのですか。

荒井／所属長というか、〇〇部長という人に指示をした。

人事に指示を出すのは総務部が所管している。

昨日は会議の中で、県外からの勤務者に対して在宅勤務に移行するよという指示をしました。

毎日新聞／大半が大阪府ですか。

荒井／割合は、また後で言います。大阪府の方が多いということは想像できる。

実数は聞いていない。

司会／日経新聞さん。

日経新聞／大阪は営業自粛をしていますが、カラオケ店などは自主的に営業自粛しています。個別の店舗に対して、営業自粛はされていませんね。
今後、自営業者に呼びかけるお考えはありますか。

荒井／今はないということです。

うつさないように用心してください、うつらないように用心してください、ということです。
営業自粛は、業種によると思います。

そういうことを申し上げますと、密接営業になると気をつけてくださいね、ということになる。
広く自粛を要請するというパターンもあるが、奈良県の場合は、こういう場合は危ないから、
ということを理屈立ててと思っている。

それでは危ないと思われるかもしれませんが、全面自粛というよりは、こういう場合発生して
るとか、こういうケースがあるとか、そういうことを示して轍を踏まないようにという呼びか
けを徹底していきたいと思っている。

感染経路を明確にして、そういうケースで発生していますから、というふうに思っている。

日経新聞／具体的に夜の繁華街とか。どうですか。

荒井／今の奈良県の感染経路は、大阪でうつされて帰ってきたということ。

奈良の勤務地で映された方もいるが、一般店舗でうつしたという感染経路はわからない。

大阪に行つてうつした人が、また奈良に帰ってきてお店でうつすという可能性はある。

でもそういう人に来ないでというわけにはいかない。

大阪に行ってきた人は、来てもらっては困る、そういうことは言えない。

うつるパターンを分析すると、大阪に行つてうつってきたというケースは何人かいる。

そういう人が何人も増えて、県内でわっと広がるということがなきにしもあらず。

そうならないように、県内の活動を自粛する。

そういう要請をしないといけない状況になるかもしれない。

県内の状況をよく判断したいと思っています。

日経新聞／全国では、コロナ疎開ということが起こっています。

大都市から地域へ逃げるということです。

大阪、兵庫でも、学生が帰省して家族がうつることが起こっている。

福井県や群馬県の知事は、アピールしている。

そのあたりは奈良の知事としてはどうお考えですか。

荒井／コロナそかい？

司会／疎開です。
都市から地方へ疎開するということです。

荒井／失礼しました。

日経新聞／そういうことは呼びかけたりはしないのですか。

荒井／疎開をしないように？

日経新聞／自分たちの県に来ないようにということです。

荒井／沖縄とかのケースですね。

日経新聞／そういうことではなくて、栃木県とか、東京の周辺の自治体は呼びかけているんですが。

荒井／疎開とは大げさなような気がするが。
休みになると、可能性としては京都産業大学のようなケースがある。
想定すると、学生さんなんかは、休みで散らばって、家でゴロゴロする。
すると、ご家族にうつすかもしれないということが予想される。
あるいは、軽井沢に行く（避難されると）と困るよ、ということにもなる。
もっと冷静に考えると、ウイルスの保有者でないとうつらない。
保有者のかたは、疎開しないでくださいと、もし言えたら、とてもいいわけですが。
それから、空港に来るとき体温を測りますよと言って、高熱の人は来ないでくださいという、スクリーニングという選別をしている。
そういう国もある。
でも日本はまだしたことがないので、一般的な呼びかけは大げさになる傾向があると私は思っている。
検査が全て可能になって、保有者と非保有者を選別できて、非保有者の人はどんどん出てください、保有者の人は出ないでくださいという仕分けができれば、とてもいいわけですが、そのような社会システムはありません。
だから全体的に呼びかけるわけです。
感染経路をよく判断して、ウイルスがないとうつらないが、ウイルスを持っている可能性があるとうつるので、気をつけなさいよと。うつさない方の用心ですね。ウイルスを多少持っていると思って行動してくださいね。
それがエチケットになろうかと思えます。
強い要請ではなく、エチケットのレベルで日本はずっと来ているという流儀であります。
日本にはエチケットを徹底する傾向にあります。

エチケットを守らない人が、うつすという結果にもなる。
日本の流儀がうまくいけば、上品な流儀だなということになる。
それではウイルスが暴れるよと、そういう国を狙って暴れるよと、思っているかもしれないので、用心しないといけない。
うつり方、うつし方をしっかりと見ないといけない。
それが我々が一番しないといけないこと。
感染経路の徹底をはからないといけないと思っている。
今のところ、大都市に行ってうつされたということが多いわけです。
大都市から来てうつすよということがあるかどうか。
疎開というのは大げさなような気がするので、疎開自粛というのは、大げさな言い方だと思いますけど。
だから来ていいよというわけでもないですけども。

日経新聞／鳥取県では、県外から来た人は2週間くらい外に出ないようにと、県知事が発言されている。
そこまでは知事はお考えにはなっていないということですね。

荒井／そうですね、なるべく冷静にとっています。
冷静にということで大丈夫なのかという心配もあるかもしれないが、まず、個人個人が冷静にということと、我々は情報を統括して、情報を知ってもらって、世の中のウイルスさんの動きをできるだけ把握したいと思っている。
ウイルスさんがいろいろ発信してくれるとありがたいが、ウイルスさんの行動パターンは多少わかってきている。
でもまだ新しくお付き合いが始まったお方ですので、なかなかそういうわけにはいかない。
ウイルスさんを撃退するには、ウイルスさんは2週間いけば沈静化するので、ウイルスさんのある個体に閉じ込めて沈静化をはかって、その間生き延びてくださいね、というのが、基本的な疫学の要請になっている。
それは個人の行動パターンでできる。
社会状況の中でウイルスさんは、人間の中で、まだまだ活動できる、活躍できる、どんどんうつっていくよと言っておられるように思うわけです。
そういうことをさせないようにするというのが、人間の行動パターンとの戦いのように思える。
ウィルさんの願いと、人間の行動パターンとの闘いというように思っていますので、知恵を出して、抑制行動して、ウイルスさんをはびこらせないようにするというような知恵を出しながら学習していきたいと思っている。

司会／よろしいですか。
ほかにどうですか。

時事通信／4月7日政府が緊急事態宣言を出しました。

これが早いのか遅いのか。

試験制限(?)もあります中、様々な意見がありますが、知事として、今回政府が出した緊急事態宣言の評価を教えてください。

荒井／緊急事態宣言の意味、タイミングはいろいろな考えがあると思います。

国の中枢も現場も、新しい敵、見えない敵に対峙している。

日本の流儀が社会活動に関係するので、日本の流儀というものが関係しているようにも思います。

ロックダウンは日本ではあまりしたことがない。

交際交流の自粛もあまり徹底的にしたことがない。戦時中を除いてということになるが。

日本の流儀で、緊急事態宣言の内容も外国のものとは大分様子が違っている。

タイミングも、社会的な行動に影響する発信と捉えると、タイミングが早かったか遅かったかというのは見方次第のように思います。

私個人としては、後になってみないとわからない。

タイミングの適否は、後になってみないとわからないと思う。

早くやっていたら抑えられたのにとか、あとになってわかることだと思う。

現時点で国の中枢の担当の立場に立つと、なかなか難しい判断だったのだろうと推察します。

緊急事態宣言の内容の強弱となりますと、日本のやり方でいくと、なるべく要請性を強くする、そういうタイプだと思います。

日本の方々はエチケットを守る風習が強いですので、それだけでも十分抑制行動に繋がってきたと思う。

エチケットを守らないと、外国では罰金を取られる。

エチケットを守らないということを想定して作られている。

性善説か性悪説かということになるが、日本は、そういう分類でいくと性善説に入るだろう。

エチケットを守りなさいねと、言ってきているように思う。

こういうエチケットを守らないと人に迷惑をかけますね。

自分にも迷惑が掛かりますね。

というように、なるべく具体的に示してやるというのが、奈良県で努めているポイントです。

国でも感染経路不明者が出ているので、しかも量が多くなっているので、どのようなエチケットが望ましいか。

徹底的にはできないが、うつされた場所が夜のライブハウスとか、交流の場所であるとすれば、それがわかってきているので、具体的にそういうところへ行かないようにまた、営業の自粛もしましようというふうになっていると理解している。

日本の流儀だから、やりながら考えていくしかないのかな。

何かわからない敵と向かい合っているので、それぞれが力を合わせて、向かっていくのが望ま

しいと思っている。

そのときにいろいろな考えが出るわけでありませう。

それもよく聞きながら、できるだけ負けない行動。抽象的な言い方だが。

ウイルスに負けてはいけませんので、できるだけ早く撃退するための行動をとるように心がけていく。

我々もそのような方向での発信を続けていきたいという気持ちです。

時事通信／長期的な話を伺いたいのですが。

新型コロナウイルスは長期戦になりそうです。

奈良県が緊急事態宣言を出す地域に追加された場合、知事は、外出の自粛の要請とか施設の使用中止、イベントの中止、自粛の要請などが出すことができます。

そういう要請を出す考えがあるかどうか。

こういう場合ならやるとか、具体的な想定はされているのでしょうか。

荒井／日本の緊急事態宣言は、地域を指定して、知事が所管している。

行政区域を指定して、発生されました。

奈良県の場合もそうですけれども、大都市の場合も、よく見ると、発生している地域と発生していない地域にわかれる。

東京都に出されたが、発生している 23 区に限られるとか。

大阪もそうだし、兵庫県も南の方に限られている。

兵庫県は但馬は除外というところまではっきりしている。

奈良県の場合も、南の方は発生していないし、学校も休校していない。

南の方は今のところ大丈夫な状況で推移していると断言してもいいと思っている。

そういう状況で奈良県に対して緊急事態宣言を発生するわけだが。

地域の感染経路、発生状況をよく見て、対応考えなければいけないと思っています。

これまでの状況を観察分析している。

そういうときが来れば対処したいと思っている。

だんだん知恵が重なってきているので、そのときの知恵がどうなっているか、知恵を絞って、見えない敵に勝つというのが、基本的な動作だと奈良県では思っている。

具体的には感染経路を絶つというのが基本的な動作。

国では、薬の開発も視野に入れて行動されているが、まず第一の作業である感染経路を絶つ、ウイルスがうつっていかないようにするのが、基本の今の作業になっている。

それが徹底されれば、爆発的な緊急事態宣言をだすことに至っていかないと思っている。

そのときは知恵を重ねていきたい。今までの知恵を重ねて備えたいと思っている。

時事通信／政府の支援等に頼らずとも、奈良県単体でできる民間への支援も多いと思うのですが、奈良県では補正予算は組まれていませんが、新しく補正予算を組んで、民間支援なり対策をするという考えはありますか。

荒井／今の状況だと事業者が立ち直れなくなる。

もっと大きく言えば雇用者であります、フリーターを含めて給料が入らなくなる方々に対する支援が、切実な事項だと思う。

地域独自ではなく、日本経済の体制の中で動いているので、基準・線引きが必要な作業になる。東京は給与保証を出す、出さないよというふうに分かれているのを念頭においてのご質問だと思いますが、なるべく標準化して、公平感が出るようにというのが望ましいと私は思っている。公平とはどのあたりに線が引けるのかというと、その事態の様子を見てみないといけないと思っております。

政治的な判断よりも、公平さという基準で政治が判断するというのが大事だと思っている。奈良県の場合は、その様子を判断しながら公平さを確保できるような事業支援をしていきたいと思っています。

時事通信／それは、補正予算を組むという考えはないということでしょうか。

荒井／国の補正予算が出たので、それを受けて補正予算というのは、考えています。

これから県の補正予算を作ると、6月の議会に出すことになる。

6月議会に向けて、補正予算の準備を始めている。

どういう形になるのか内容については、国の線引、事業の様子を見て、またこの事態の推移を見て、6月補正に備えることになる。

国の補正予算の県執行のタイミングとしては、臨時補正を出すか、6月補正にするか、判断がわかる。

作業的には6月補正になるんじゃないかと思っています。

時事通信／最後にもう一点。

県のようなイベントは、中長期的なものにも影響を与えてくると思う。

東アジア地方政府会合は、海外との関わりが強いイベントです。

あちらの準備もそろそろ始まってくる頃だと思うが、いかがでしょうか。

荒井／東アジア地方政府会合は、11月頃にインドネシアのバンドンで開くことになっています。

バンドンがその頃どうなっているのか。

あるいは、参加者である中国、韓国、日本がどうなっているのか。

オリンピックと同じようなことがあるので、今の段階で予測はつきません。

まだ延期とか中止とかという検討は、まだ始めておりません。

時事通信／ありがとうございました。

司会／ほかにご質問は？

NHK さん。

NHK／イベント関連についてですが、イベントの大小、種類を問わず、人の集まることを対象にということですか。

荒井／イベントの自粛ですね。

ウイルスの伝わり方は、接触か飛沫か、マイクロウイルスは漂って落ちるまでの間に何かに付いて体内に入る。今までのところ、この3つのケースが想定されています。

イベントがあるとそういうケースが発生しやすくなる。

そういう心配をしての自粛の要請です。

それなら離れてやるからいいじゃないかと、そういうことがありうると思います。

たとえば、自動車の中で映画を見るというようなことを考える人もいるかもしれない。

そういうこともありうるかもしれないが、従来のパターンでのイベントは自粛したり、中止をしたり、延期をしたりということになってきている。

人が集まって、すぐ隣に座るとか、横から話しかけるとかで唾が飛ぶ。

そういう可能性が高い。

飛沫も含めた接触感染の可能性は、イベント参加などで交流があるとうつるということが、いろいろなパターンでわかってきている。

それは主催者の方にも自粛してほしい。

参加も自粛されたらどうですかと呼びかけを始めている。

十分に自粛は進んでいると思っています。

NHK／期間は、いつ頃まで想定していますか？

自粛を求めるイベントの期間というのは？

荒井／開催が延期または自粛されているのは、連休を目途にしているところが多い。

その後は様子をみないとわからないと思う。

県の場合だと、ムジークフェスタは5月の連休の後だが、中止を決定した。

出演交渉などは、今しないといけない。準備があるので中止を決めた。

参加者は行くのをやめたで済むが、準備はそういうわけにはいかない。

世の中が収まっているという事態になるかもしれないが、それはしょうがないと思っている。

イベントは大きくなればなるほど準備が必要になる。

それも踏まえて、先に中止と決めた。

連休まで自粛ということにしているがその後は、様子を見ないとわからない。

NHK／わかりました。

学校の休校の状況ですが、今回緊急事態宣言が出される前後で県内の各市町村で対応がかなり

分かれたところもありました。

県立学校も、今日最終決定をされるということですが、結構ばらばらに対応が分かれていて、県民の方もどうしたらいいのかという期間が長かったように思います。

この検討を県としては考えていますか。

状況を見なければというところもあるかと思いますが、いかがですか。

1時間 10分

荒井／学校の教育活動等の休園、開校の決定は、学校の管理者に委ねられている。

登校者の健康安全を守るのは、具体的には校長先生の責任です。

では勝手に判断ができるのかといえば、こういう状況での判断は難しい。

だから、ガイドライン的なものを国が発信している。

そして県も発信するという状況です。

だからバラバラ感があっても制度自身ではおかしくない。

誰かが駄目と言えばみんなが駄目になるという国柄ではない。

その点ではおかしいというわけではない。

バラバラと言うほどバラバラではないのだが。

おかしいという制度ではない。

そのときに合理的な判断を、校長先生がされるのか。

判断のなかには、開校、休校というやり方の判断と、登校した場合のやり方とか、先生も含めてそこにいる人の安全を守るという配慮が管理者の義務であります。

それをどのように合理的にしているのか。

ということを追ってみたいと思う。

保育園は開園、幼稚園は休園というケースもある。

幼稚園も開園しているところも多いが、小学校も放課後児童保育のようなことも概ねされている。

預ける状況がどのようになっているのかフォローして調べようと思っている。

フォローがものすごく大事だと思っています。

こういう状況は新しい状況なので、どうすれば守れるのか。

どこから破られたかということが、繊細にわかってくる。

次に備える人類の最大の武器は、記録だと私は思っている。

どのように推移したかを記録する。

それが同じ敵がまた襲来するかもしれないので、次の敵に備えるのは、今回の記録を最大限とって分析しておく。

それが一番大事だと思っている。

バラバラ感があること自体は制度的には、不思議には思っていない。

それをきっかけに学習はしたい。

一斉でないので困るという人がいるというご指摘ではありますが、学校の管理者はあなたでしょ

う、どうするつもりですかという対話が発生する可能性はあると思う。
責任者は校長先生ですね。
どのようにして開校しましたか、閉校しましたか、説明してくださいね、と。
お上のお達しです、という返事がよくある。
それでは日本は成長しないから。
現場で判断していただくのが基本的には良い。
そのときの判断に合理性があるかどうか。
いつも知恵を出して、こういう場合の敵にも備えないといけないと思っています。
決して悪いだけの面ではないと思っています。

NHK／わかりました。

PCR 検査の細かい話ですが、先ほど、1日にだいたい30件検査されているという話でした。
ここに検査待ちという状況が生じているかどうか。
そのあたりはどうでしょうか。

荒井／検査をどのような人にすべきかという論点があります。
韓国などのようにとにかくたくさんしましょうという国もある。
検査は、ウイルスを遮断する効果はありません。
効果があるとすれば、保有者であるということがわかるので、あなたは入院しなさいねという
ことでスクリーニングができる。
そこに、検査の意味があると思う。
もう一つは、重症化を防ぐ。
感染していることがわかれば、入院して隔離する。
入院したときは、重症化を防ぐ手当てをする。
その2つの要素が入院する効果です。
兆候が必ずあります。
志村けんさんがすぐに亡くなられたのでショックではありますが、発熱したらその場で
亡くなるというのは少なく、発熱して、検査でわかって、重症化になるケースがある。
致死率はまだ低いですが、重症化を防ぐルートでの検査は大事だということがあります。
重症化を防ぐことに重点を絞って検査するのでも十分だと思っている。
(感染者だと)わかっていれば、その人をなるべく人前に出さないようにしようというために、
検査の効果はあると思う。
そのときに、軽い人は(検査に)来てはいけませんよというスクリーニングの社会活動の
要請ができるかどうかということになります。
ハンセン氏病でそのようなことをしたというトラウマが日本にはあるようにお思います。
あれは根拠なしに、ハンセン氏病は外に出るので判断したわけです。
そのような隔離はなるべくしないようにという民間の人の根深い背景があると思います。
それが一つの流儀です。

感染者はうつさないように、感染している可能性のある人も自粛しましょうという流儀に全体的に日本は今なっている。

PCR 検査は重症化を防ぐためにやってきたというふうに思っております。

その人を特定して、行動自粛する検査の効果はあると思います。

日本はそのような流儀に、まだなっていないのだなと思います。

そのように転換するかどうかは大きなポイントになります。

奈良の場合はそれほど広げなくても、感染経路をできるだけ判断して、感染経路を断つということを徹底することで抑制できたらいいなど。

思っております。

NHK／検査の考え方の確認をしたい。

検査はこれまで 30 件のキャパだった。

30 件ぐらいやられているということだったので。

日によっては、検査をしようと思ったけれど、30 件以上検体があって、翌日に繰り延べている日が起きている日があったりするのかなと思うのですが、そのあたりはどうですか。

荒井／検査の停滞ということですね。

NHK／はい。

今後増やしていくということですか？

荒井／検体までは・・・。

司会／検体に関しましては、順番にやっていっているわけです。

朝検査しようと思ったら、30 件いっぱいになって、夕方検査をするということは実際に起きています。

あまり停滞する場合は、職員に負荷がかかりますが、3 回まわすとか、はけられるように工夫しています。

来週の月曜日からは、安定して 1 日に、40 件回せるように、今、体制を整えているところです。

NHK／では、今、無理をしてでも、その日のうちにやっているという状況ですね。

司会／なるべく停滞しないように、工夫をさせていただいています。

NHK／わかりました。

荒井／今まではキャパシティの不足ということが言われていましたが、停滞するようなキャパシティの不足はなかったのですが、これから発熱者が増えてくると、感染者が出ると

濃厚接触者は全て検査しましょうというケースもあるので、ずいぶん増える可能性があるもので、キャパシティを増やしておくことに越したことはない。

今のところ停滞ということは起きていない状況。

将来に備えていきたいと思います。

これが倍、倍、倍になるタイプの感染者の散らばりになると、そのような兆候が出始めたら、PCR検査の拡充は、また視野に入れていきたい。

しょっちゅう考えているが、今までのところ、渋滞はちょっとあったかもしれないが、停滞まではっていないというように聞いています。

司会／次、奈良テレビさん。

奈良テレビ／今後爆発的に患者が増えた場合は、自宅だったり、宿泊施設だったりを確保していくということですが、奈良県は宿泊施設が決して多いわけではないと思うのですが。

具体的にどういう施設をお考えでしょうか。

荒井／軽症の感染者の方がそこで療養できるようにということで、外部との接触なしに、生活できるというような施設が望ましいと思う。

そのような状況の施設になると思う。

具体的には、トイレ、洗面所が個室の中にあるというのが、最低限の条件になると思う。

そのような場合、食事はそこに運び込まれて室内でのルームサービスができるようなところになると思います。

そのような施設を、希望もないといけませんので、募って選んでいくということになると思います。

そのような場合は、病床代わりなので、当然補償します。

補償のパターンはまだ決まっておられません。

これだけの補償をするので、お客さんとして扱ってくださいと言える面もあろうかと思えます。

無償でやりますという企業者の方も出ていますが、県が要請するときは、ある程度補償するということになると思います。

そのような条件の整ったところで、希望者とマッチングして、実行していく。

軽症者は自宅でも療養可能だと。

要するに、接触さえ絶てば重症化しない患者さん、兆候があれば手当をしますよという患者さんには、観察が必要になる。

生活の維持と経過観察ができていくということになれば、居場所として用意するということになる。

自宅でも経過観察ができるように、訪問看護、観察ができるようにということになると思います。

宿泊施設も同様のサービスが付加した宿泊施設ということになる。

具体的に、ここに当たっているというところまでは来ていません。

奈良テレビ／今後、個室で、トイレや洗面所が整っているという施設で、希望者を募っていくということですか。

荒井／そういうことですね。

お医者さんが常時居る病床は、重症化している患者さん用にキャパを、とっておきたいと思っています。

だんだん退院が間近になると、症状が安定してくるので、完治するまで病床にいるのではなく、自宅へ戻ってください。

あるいは、自宅に戻ったらお子さんがいるなら、避難宿泊施設に行ってくださいと要請すると想定しています。

奈良テレビ／自宅や療養施設での治療になると、市町村との連携が必要になってくると思います。

市町村での数は昨日、30人の発症と発表になりましたが、それに対する知事のお考えはいかがでしょうか。

荒井／市町村でバラバラ感が出ないようにと願っています。

学校も休校する市町村としないところと、バラバラ感があるというご指摘もありましたが、先ほども申し上げたように、多少のバラバラ感があってもいいような状況であります。

市町村に設備管理者に、具体的には校長先生に委ねられているからということでもあります。介護施設、障害者施設などは市町村の管理のところもあります。

市町村主催のイベントなどもあります。

同じようなことに関わり合いを持っているのが実情でございます。

このようなときの行動パターンですが、県と市町村はそれぞれ分立した政治行政主体でありますので、それぞれの守備範囲をしっかりと守ることが大事だと思います。

守備範囲を守っていれば、その中でやるべきことが見えてくると思いますので、誰かの言うことを聞いていればいいという事態ではないと私は思います。

協調というのは、その中で発生するものでございます。

協調の要素がいろいろありますので、お互いの言ってることの妥当性をよく判断して、それぞれの立場を守っていただければ、十分なことができると思っています。

司会／よろしいですか。

ほかにご質問どうでしょうか。

記者／今の奈良テレビさんの関連なのですが、今後、軽症、無症状の方には、自宅や宿泊施設などで療養していただくことで準備を進めていくということなので、市町村との連携が必要に

なってくると思うのですけれども。

情報共有、要は、濃厚接触者に関する情報とかの共有も必要になるかと思うのですが、いかがでしょうか。

荒井／意味のある情報共有をしていきたいと思っております。

意味のないのは、あまりする必要がないかと。

そういう言い方も変だけれど、そう思っております。

それを説明して納得していただいております。

市町村長会から、一緒にやろうと要望が出ました。

抽象的なので具体的にはどういうことかと言ったら、濃厚接触者を全部言えということです。

言う人には言うけれども、という返事をしております。

それで納得されておりますので、それで大丈夫かと思えます。

政治的なアピールをされた市長さんがおられたということでもありますけれども、我々実務的に対処していきたいと思っております。

実務的な困難が発生しないようにと心がけております。

正直言うと、喧嘩してる場合じゃないでしょうと。

様子を見て協力する姿勢を常にしておかないといけないでしょうと思えますね。

記者／ただ、市町村は、情報を求めている。情報が無いことには動きづらいということがあると思えます。

荒井／それが合理的かどうかを判断する、判断しますと言っています。

合理的だと思えますか？

内容次第ですよ。

記者／自分の住んでいる市や町が、どの程度感染が広がっているのかといったことは重要な情報になってくると思う。

荒井／市町村ごとの状況を発表するようにしました。

どこの誰ということは、それぞれの保健所はわかっていますが、市長や私が具体的に知っているわけではない。

私がどこの誰と知っているわけではない。それがなくても行政はできる。

具体的に名前まで言えというのは、意味がわからなかった。

そういう個人情報を伝えるわけにはいかないでしょうという返事をしていました。

記者／大事なことは、県内で濃厚接触者や感染者が出たときに、そこから広がらないようにするということはずごく大事なことだと思えます。

そのとき市町村の協力がすごく大事になると思えます。

荒井／そうかな。

やり方次第だと思うけれど、市町村長のやり方次第だと思います。
こういうことをしたいからこういう情報くれと具体的に言ってほしい。

記者／なるほど。

荒井／それが出てこないから、何ですかと聞いている。

それを追求しないといけない。けんかしているわけではない。

騒ぎ立てるための情報はあまり必要ないんですよ。

具体的なアクションに繋がる情報が欲しいから、このような場合にこうしたいからと言って
くれたら、それに適した情報があれば準備しますよ。

それは公表とは違う。個人情報に繋がるから。

個人情報保護法との接触をどうするか、個人情報とのマッチングとの繋がりになると思いま
す。

記者／いずれにしても、今後自宅や宿泊施設での療養となると、経過観察の要因とか、県の
人員だけでは無理だと思うので、市町村の協力が必要になると思うのですが。

そのための会議やプロセスみたいなものはありますか？

荒井／それは必要だと思います。

先ほど言いましたが、軽症者の自宅待機となりますと、経過観察を市町村の保健所にお願
いするということは十分にあると思います。

そのとき、保健所だけで知っておくのか、首長まで知らないといけないのか。

その線引きは微妙なところですよ。

私も知らないことでありますので、市町村長が知らなきゃいけないのかということは検討を
要します。

保健所の方が軽症者の方を訪問することは、公表されなくても当然あります。

市町村の保健師の方が訪れることは十分にあると思います。

そのための情報共有は、誰のレベルでどういう情報共有か、当然知っておかないといけな
いと思います。

それが政治レベルで首長が情報を共有する必要があるのかどうか。

それは多少用心しないとけない。

私はそう思っています。

どこの誰がうつっているのか、私自身も知りません。

知ったからといって、やることがないからです。

記者／これから市町村と連携してやっていかなければいけません、そのプロセスとして何か

考えていることはありますか。

荒井／市町村との協働ということですね。

こういう場合は、具体的に何をするからこうしようという発案、知恵を重ねるのが一番いいと思っている。

闇雲に見えないところで、みんな守りを中心として格闘しているのですから。

俺が言いたいからというのは一番やってはいけないことだと思う。

どういことをしないといけないという想定をして、こういうケースがあるからと。

住民の方が不安に思うという社会心理が発生しているので、それを安定化する。

ウイルスの蔓延よりも、社会心理の不安要素の蔓延状況も課題の一つです。

社会心理の不安要素をどう防ぐか。

新しい課題です。

そのために、情報をどんどん出さないといけないということか、どこまで出すかということ。

これは大きな判断が必要なところですよ。

私は、正確にわかっていることをどんどん出していこうと思っています。

正確さというのは、エビデンスということになります。

それと個人情報の兼ね合いの線引きをして、出していこうかと思っています。

記者／その情報の出し方は非常に難しいと想定しています。

今後、市町村との連携をしているという姿を見せることが、不安の解消にもつながると思うので、目に見える形でやっていただけるとありがたいかなと思います。

荒井／そうですね。

教育の分野の連携というのはあり得ると思うが、校長先生に任されているので、日本の流儀でいくと、市町村の学校の休園休校は、指示することも要請することはありません。

一般的に児童にうつらないように。閉校するときも、遺漏ないようにと願って、お願いベースでしております。

県はどうしてくれるのと、具体的に挙げましたら、連携を強めていきたいと思っています。

県のイニシアチブということになると、街づくりとか、奈良モデルでもやっていますが、

県のイニシアチブが取れる分野であれば積極的にしていきたいと思っています。

そのようなものがあれば具体的に積極的にイニシアチブをとってやっていきますし、

具体的に要請があれば取っていききたい。

地に足がついた行動・思考パターンが必要だと思っています。

記者／ありがとうございます。

何しろ、県がエビデンスというか、情報を持っていますので、イニシアチブをぜひとってやっていただければと思います。

荒井／一般的な感じがしますけれどもね。今のはね。

司会／ほかにご質問はどうでしょうか。

朝日新聞さん。

朝日新聞／次の総合対策本部会議はいつ開くか、決まっていますか。

荒井／こんな状況ですので、急変があると当然開きます。

そうでない場合も、定期的に関開くようにしようかと相談しています。

対策会議はオープンにしていますけれども、そういうやり方でいいのか。

ならプラスで出しますけれども。

このような（記者会見）やり方がいいのか。

対策本部会議の後のレクチャーという方が落ち着くのか。

対策本部会議のスペースオープン化は、それはそれで良いのですが、ご質問もできない状況でありますので、対策本部会議はフルオープンにして、その後このように会見するという事態も必要になってくるかもしれません。

むしろ、アドバイスをもらって定期的に関やれと言うなら、それはそれで考えたいと思っている。

毎週、報告することがなくても、こういう会見を開けというなら、個人的にはしてもいいのかなと思っている。

広報と相談して、やり方についてご示唆があればアドバイスいただけたらと思っています。

朝日新聞／会議のフルオープン化というのは、個人的にはお願いしたいところではあります。

関西をみても、緊急事態宣言が出ていない他府県が、緊急事態宣言を受け大きな動きがあった後で、緊急対策本部を開くなり、緊急の会見を、昨日、一昨日の間に開いていたところは複数あります。

奈良県も県民の方々に安心していただくという意味で、もうちょっと早い対応ができたんじゃないかと思いますが。

荒井／早いと思いますけどね。

昨日も会議をしていましたし。私のところでは、ほぼ毎日会議をしています。

朝日新聞／もちろん、内部でされているのはわかっています。

荒井／目立つようにしろということですか。

朝日新聞／目立つというか、見える形でということですか。

荒井／見えるようにしろという要望があるということにお聞きしておきます。

見えるようにすれば安心だということなら、それも一つの効果だと思いますので考えたいと思います。

実質的にはしておりますので。

こんな資料も出るようになっておりますので。

分析して考えることは大事だと思っています。

今の段階で出た知恵ということになります。

それが安心に繋がればいいと思って、発表しております。

それをもう少し頻繁にするというか、見えるようにしろというご示唆があるのなら、検討したいと思います。

また教えていただければ、相談します。

朝日新聞／例えばですね、一昨日、往来自粛をお願いするコメント文を發表されていましたが、お忙しいでしょうが、テレビの前で語りかけるような形で言ってもらってもよかったですのではないかと思います。

荒井／別にしてもよかったですけど、事務方（じむかた）でやりますよというので、そうかと言った。いやだと言った覚えはないんだけど。

朝日新聞／会見を要請していたと思うんですが。

荒井／いやいや。私も含めて広報センスがないほうなので、教えていただければそのようにしますよ。

言っただけであれば会見をしてもいいなと思ってたんですけども。

行かなくてもいいよというから、ああそうかとしたんだけど。

朝日新聞／そうですか。

荒井／そんな感じです。

いい効果があるなら、出ても差し支えない状況にあります。

朝日新聞／ぜひそうしてください。

荒井／わかりました。

朝日新聞／安心になりますから。

荒井／そう？安心になりますかね。

なるべく安心していただくようにと思っております。

朝日新聞／ありがとうございます。

司会／ほかにご質問はありますか。

毎日新聞／知事ご自身、どのように感染しない対策をとっておられるのですか。生活も含めてですね。

それと、公務もかなり増えていると思いますが、公務にかなり影響は出ているのですか。この2点についてお願いします。

荒井／年度末から年度初めにかけて、行事がたくさん入っていたが、ほぼ全てキャンセルになった。

その分、時間の余裕が出ております。

その時間、仕事の書類の整理、資料を読み解くことに傾注している。

空き時間を利用した仕事の仕方です。

本を読むのは在宅でもできること。

民間の方であれば在宅でできる。

私自身は、ここに来たり、書類を持って帰って家でやってというのが日常になります。

うつさない、うつらないというのは、接触がないというのが一番大きなことです。

会合や行事がほとんどなくなりました。トランプさんにしろ、ジョンソンさんにしろ、仕事でうつってますので。

今日もこのように座っていただきましたけれども、なるべくうつらないようにうつさないように、工夫するという程度であります。

年度当初めということで配属も決まって、来週からは配属が決まった新しいメンバーでの会議がどんどん入ってくると思う。

そのような状況です。

司会／よろしいですか。

それでは、いったん新型コロナウイルスに関する質疑応答は終わらせていただきます。

続きまして、その他の質問がございましたら、よろしくお願いします。

記者／県立図書館の本の貸し出しはいつになったらできますか。

荒井／コロナと関係もある。

本の貸し出しは、今は休館しているから、借りに行ってはいけないのだけれど、発注して貸し出しができるかどうか？

記者／そうですね。予約の貸し出しですね。

奈良市はそういうことをしてやっている。

荒井／本の貸し出しについて・・・。

県担当者／今後接触しない形で、どういう形でできるか、検討させていただきたいと思います。

荒井／TSUTAYA は開きましたので、書店には割とたくさん来ておられますね。

記者／本に対する需要は高まっている。

図書館情報は、各市町村の図書館にはないような本が豊富にあると思う。

必要な人はいると思う。

結構困っている人がいるのではないかなと思う。

感染対策をしっかりとした上で、貸出ができるようになると、ありがたいです。

荒井／そうですね。

貸出くらいは、来なくてもできるように、ちょっと検討します。

司会／ほかにご質問はどうでしょうか。

毎日新聞／昨年実施した県の政治意識調査の結果は、いつ公表されますか。

荒井／何？

毎日新聞／政治意識調査の結果はいつ公表されるのですか？

荒井／政治意識調査の報告書は届きました。

今、県会議員の人とかに、報告書を出しています。

私も読み始めておりますが、とてもいい本ですので、皆さん読みたいという人がいれば、今日この後でもお届けいたします。コピーがありますので。

読みたいという人がいれば、報告書自身を渡したいと思います。

議会には、その報告書自身を届けております。

一般公表については、報告書そのものを出してもいいのですが、概要版を作って公表しようかと思っています。

概要版の案も出ておりますので。

著作者の人に検閲、チェックをしていただいております。

これでいいよということになりますと、概要版を県のホームページに公表して、報告書も公表するという段取りをしています。

それは、まもなくできると思います。

関心のある皆さんには、今の時点でも、コピーになりますが、報告書をお渡しすることはでき

ます。

読み始めた印象では、とても良い報告書です。

視点が明確になっている。

政治参加への友好度意識がどのようにあるのか。

報告の内容の一つに、奈良県では、南部の方の政治への働きかけの意識が極めて高い。

それは想像されたことですが、調査でエビデンスでわかってきている。

もう一つは奈良の誇りプライドが、どのようなところにあるのか。

政治意識の中で調査されています。

具体的なエピソードにまでは到達していないが、調査の結果そのような二つの視点があるということが興味を引いた。

どうしてそのようなことがわかるのかというと、調査の仕方がずいぶん進んできている。

外国でも、サーベイ調査、サンプリングの共通性がでるような調査方法だということも書いてある。

そのような調査仕法でありますので、それを読み解いていきたい。

参加していただいた政治学者さんは、日本でも有数の新進系の政治学者さん。

それがよくわかりました。

そこには、日本では意識の高い、先進的な調査だと書いてある。

アメリカやヨーロッパで、常に行われている調査仕法を活用している。

北村先生が、関西はまだ慣れてなかったのかなあとっておられた。

これを機会に、調査の意味を報告書で多少感じていただければ、たいへん効果があったなと思います。

司会／よろしいでしょうか。

では、会見後に配付をさせていただきます。

ほかにご質問はどうでしょうか。

それでは、これで知事定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。